

子どもを犯罪から守るための講演会

# 子どもたちの安全、どう守る？

～見守りのコツ、安全指導のコツ～

市民防犯のパイオニアとして、市民目線で安全を伝えるためのプロジェクト「うさぎママのパトロール教室」を主宰する武田信彦氏をお招きし、防犯ボランティアの効果や可能性、継続のコツについて講演をしていただきます。また、安全にパトロールを行うためのコツや安全指導のコツを実技を交えて学んでいただきます。

日時

平成31年5月9日(木) 13:30～15:30

場所

新潟テルサ 大会議室

新潟市中央区鐘木 185-18 (入場無料)

講師

武田信彦氏

うさぎママのパトロール教室主宰  
安全インストラクター

うさぎママのパトロール教室主宰・安全インストラクター

犯罪防止 NPO での実践活動を経て、市民防犯・子どもの安全を専門とする講師として活動中。講演や研修会をはじめ、子どもたち対象の安全セミナーなど、全国で年間約 150 件の依頼に対応。開発・実施する安全ワークショップ「あんぜんパワーアップセミナー」で第4回キッズデザイン賞優秀賞受賞。著書には「SELFE DEFENCE『逃げるが勝ち』が身を守る」(講談社)ほかがある。市民防犯のパイオニアとして、コラム連載やメディアでも発信を続けている。



定員：100人 申込順(お早めにお申込みくださいますようお願いいたします。)

しめきり：平成31年4月26日(金)

申込方法：代表者氏名、参加人数、連絡先を記載し、メール、FAX 又は郵送でお申込みください。

申込先：新潟県県民生活・環境部 県民生活課 消費とくらしの安全室

〒950-8570 新潟市中央区新光町4-1

TEL 025-280-5249 (直通) / FAX 025-283-5879

E-Mail [ngt030110@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt030110@pref.niigata.lg.jp)

主催 新潟県・新潟市

後援 新潟県教育委員会・新潟県警察



# 身を守る力 学んで高める

## 増加する子どもを狙う犯罪

新学期が始まった。新たな通学路で登下校する子どもも多く、保護者の安全への心配は尽きない。昨年一年間に、十三歳未満の子が連れ去られる略取・誘拐事件は全国で百件以上発生している。親が常に付き添うことは難しく、子どもが自分で身を守る必要がある。「安全」をどう教えられるのか。(花井康子)



安全教室で新聞紙を使って触れられない距離を教える武田信彦さん(左)=東京都内の学童保育で(武田さん提供、一部画像処理)

名古屋市の小四女児は半年前の下校途中、自宅まで十数分のところで不審な男から声を掛けられ、つきまといられた。走って帰ったが「何を言ってるかわからず、怖かった」と振り返る。愛知県あま市の小三女児は一年ほど前、前から来た男に突然、手をつかまれた。一緒にいた母の水谷愛

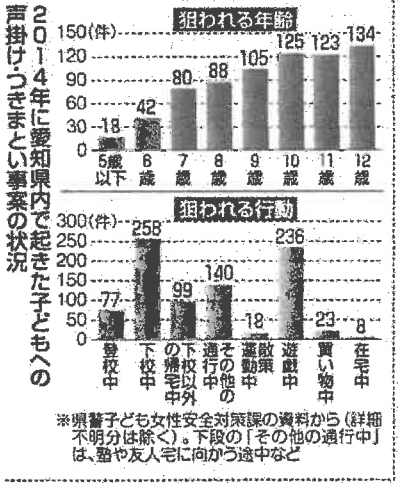
人通りのある駅周辺だった。正午ごろで、それでも被害に遭った。一緒にいた母の水谷愛

美さん(右)は「私と逃げられたけど、一人だったら」と不安でいっぱいだった。警察庁の調べでは、この十年で刑法犯の認知件数は半減。一方でこの数年、十三歳未満が被害に遭った事件は増加傾向にある。愛知県内では二〇一四年、子どもへの声掛けやつきまといが八百六十九件発生。統計を取り始めた一〇年と比べ、三百五十三件増えた。届け出ていない事件もあるとみられ、実際はもっと被害が多い可能性もある。不審者対策では学校と警察が連携し、不審者の侵入を想定した避難訓練や安全講話などを行うケースが多い。

## ゲームで「体験」／親向けの講座も

東京都豊島区の防犯教室「うさぎママのパトロール教室」は、独自の手法で対策力を入れている。教室を主宰する武田信彦さん(左)は、全国の学校や学童保育所などを回り、体験型の安全教室を年一回以上開催している。楽しく学んでもらおうと、教室はゲーム形式。演

城で啓発活動をしている。しかし、同県警の担当者は「子どもが不審者を見分けるのは難しく、なかなか被害は減らない」と嘆く。田さんは「事件を再現した映像を見せたり話を聞かせたりすると、恐怖で緊張し、積極的に学べない」と指摘。「不審者を強調しすぎると顔見知りや油断する」と話。柱は「子防カ」と「対処カ」を身に付けること。安全教室では目を閉じて音や話し声などを聞かせ、どんな種類の音がどこから聞こえたか答えさせる。危険な音の方向を見分ける訓練になる。背後に意識を集中させるハンカチ落としや動作で助けを求めるシエンスチャームゲームも効果的という。



※県警子ども女性安全対策課の資料から(詳細不明分は除く)。下段の「その他の通学中」は、塾や友人宅に向かう途中など

い。愛知県などでは高学年の児童に「防犯少年団員」を委嘱し、チラシ配りなど地取り入れることもある。武田さんは「危険が迫る距離を覚えることも大切。「歩く鬼ごっこ」というゲームでは、鬼役の大人が腕を伸ばし、話し掛けながら子どもの周りを歩く。子どもは、話しながらも触れられない距離を保って歩き続ける。こうすることで「知らない人でもあいさつや会話はOK、でも触られないように」という感覚を覚える。これらを繰り返し練習し、いざというときに備える。武田さんは「特に必要なのは防カ。怖い目に遭

わず、回避するのが一番。護身術など頼り方を教える、いじめに使う恐れもあるので勧めない」と話す。プザーやGPS付き携帯電話などの防犯グッズが普及しているが、誤作動で音を聞き慣れた事件と混同するおそれがある。武田さんは「地域のひとと一緒に学び、プザー音の確認を」と提案する。

# 登下校安全対策学ぶ



県内盛岡で講習会  
教員ら

県教委は20日、盛岡市志保町のサンセール盛岡で防犯教室講習会を開いた。県内の小中高校や特別支援学

丸めた新聞紙を使って、登下校時に会った人との適切な距離感を学ぶ教員

校の教員ら約40人が児童生徒の安全に関する知識を学んだ。

講師の安全インストラクター武田信彦さん(41)は、学校と地域が連携した防犯活動の重要性を強調、子どもが登下校時に会った人と、どのくらい距離を取ればいいのかも指導した。参加者は会話ができ、相手に触れない距離を体感する練習を2人1組で行った。

大船渡市の日頃市小の藤田聖子副校長は「学校や地域で防犯への関心は高まっている。不審者からの誘いの断り方や、距離の保ち方を表層的に指導したい」と気を引き締めた。

「共働きやひとり親の家庭がことを教えなければいけない」が増え、子どもが一人になる時間、地域としてどう対応すべきが多い。自分で身を守る力を高める必要がある。保護者も大人は、あらゆる状況に危険が潜む安全を見守ることが大切。タク

## 不審者、あらゆる想定を

「市部は集団登下校が効果を発揮しやすい。人口が少ない地域は既存の地域力をさらに高めるべきだ」  
被災地は通学路の環境が刻々と変化する。  
「危険が存在する場所も変化する。(再開した店舗など)子どもが助けを求められる場所も変わる。周囲の環境変化に常に敏感であるべきだ」

## 武田信彦さん(安全インストラクター)に聞く



「子どもが自分で身を守る力を高める必要がある」と指摘する武田信彦さん

武田 信彦氏(たけだ・のぶひこ) 慶応大卒。会社員を経て、06年から安全インストラクターとして活動。全国での安全講習や出版などを展開している。著書に「親子で読もう!子どもの安全ブック」など。41歳。ドイツ出身。

「不審者といえば、以前は見知らぬ中年男性というイメージだったが、最近は顔見知りの犯行もある。性別や年齢に聖域を設けず、あらゆる想定が必要だ」

静岡県藤枝市で19日に下校中の男児が男に切られて重傷を負った事件や、5月の新潟市女児殺害事件など、通学路で子どもが狙われる事件が頻発している。全国で防犯の講演を展開する安全インストラクター武田信彦さん(41)に家庭や地域ができる対策を聞いた。

(聞き手は報道部・林島平)

「子どもを狙った犯罪が全国で相次いでいる。」

「不審者といえば、以前は見知らぬ中年男性というイメージだったが、最近は顔見知りの犯行もある。性別や年齢に聖域を設けず、あらゆる想定が必要だ」